

地域で農業支えよう

消費者参加の「CSA」弘前で取り組み

生産者へ代金前払い

NP法人ECORIPブリック白神(渋谷拓弥理事長)は今年から、弘前市内で地域が支援する農業プログラム「CSA(コミュニティ サポートッド アグリカルチャー)」を試行したいと準備を進めている。米田などで広がるシステムがモデルで、収穫に先立ち一定の支援金を農家に支払い、農業を支えながら、出来上がった有機農産物を受け取る仕組み。また生産者と消費者をつなぐ自由な意見交換の場づくりも計画しており、5日に第1弾の「農園カフェ」を開く予定だ。

第1弾「5日に」農園カフェ

CSAは、一般的に「格的に農作業が始まるは地域の消費者が地域 前の暮先にまとめて行の農家から代金前払い われ、農家は売り先とで農産物を定期購入す 収入を確保した上で農の仕組み。支払いは本業に集中できる。



ECORIPブリック白神が弘前市大手町の菜市場に開設している「菜市場マルシェ」農業や食をキーワードにしたまちづくりに力を入れている

同法人の構想では、スイーツの試食などをまずは支援金という形で寄付を募り、支援者には農園での簡単な作業や収穫体験などをしてもらおうほか、収穫物をお任せセットとして受け取れるようにしたいと考えている。

既に弘前市内の複数の生産者が協力する意向を示しており、CSA農園の候補地も検討中。支援金の額など詳細はまた検討中だが、春には支援者を募って1年間試験的に取り組みたいという。

5日に開く農園カフェは、生産者と消費者に自由に意見交換して、互いに理解を深めたり、新たなニーズを発見したりする場として企画。農業の現状や市の特産品についての情報提供、献き

エジプト内閣総辞職

首都で再び数万人デモ

【カイロ時事】反政府デモで混乱が続くエジプトで29日、内閣が総辞職した。ムバラク大統領が未明に表明した改革案に基づいた措置。しかし首都カイロでは同日も、数万人がデモに参加したほか、北部アレクサンドリアなどではデモ隊と警官隊が衝突する事態に発展しており、情勢は手断を許さない。ロイター通信は同日までの死者が

警し、治安部隊の車両に放火した。カイロなどでは、夜間外出禁止令の時間帯に銀行や免税店が襲撃されるな

首相ダボス講演

「第3の開国」強調

TPP 6月結論 国際公約に

会場は弘前市高田1丁目の「親子カフェ」で、午後2時から。定員は15人とし、参加料は無料。一連の取り組みの背景には、「弘前市の基幹産業である農業をみんんで支えたい」という思いがあるという。波谷理事長は「農家が思いを伝え、申し込むはECORIPブリック200903」へ。

ダボス(スイス)夜、スイス東部のダボスで開かれていた世界経済フォーラム年次総会(ダボス会議)に出席し、「開国と絆」の題で講演を行った。首相は、明治維新と戦後続く「第3の開国」が「今また求められている」と強調。環太平洋連携協定(TPP)交渉への参加は、経済連携の取組みを進める中で「日本は足踏み状態にあった」と振り返り、TPPについて「6月をめどに交渉参加に関する結論を出す」との方針を改めて示した。



三味線ライブなどで観光客をもてなした「雷見列車風っこ号」

「JR版ストリープ列車」色を眺め、風情ある車「雷見列車風っこ号」が29日、弘前市から訪れた。弘前市から訪れたグループ客は「二人は、あしあとを残して栗鼠の眠りけり」

疲労回復・体力増強
冬の疲れにかつ
どんかつ専門店
松島 達